



たまり粕を利用した敷料向け堆肥生産技術を開発

— 敷料に利用するオガクズ不足を解消します —

開発の背景・ニーズ

家畜の寝床に敷く敷料は、主にオガクズが利用されていますが、近年、オガクズの流通量が減少し、畜産農家から代替物が求められています。自家生産が可能な堆肥を利用することもできますが、通常の堆肥は水分が高く、敷料として適しません。そのため、油脂と窒素を豊富に含み、堆肥発酵を促進する「たまり粕」（醸造会社から出る産業廃棄物）を利用して敷料として利用できる低水分の堆肥生産技術の開発に取り組みました。

成果の内容

牛ふんを堆積してから6週目にたまり粕を添加することにより、低水分で敷料に向く堆肥を生産することができました。

- 堆肥化の過程では、たまり粕添加後、病原菌（乳房炎原因菌など）を死滅させる60℃以上の温度を数週間維持しました（図1）。
- 堆肥の水分は、敷料利用に適した50%未満に低下しました（図2）。
- 出来上がった堆肥を牛の敷料として利用したところ、オガクズ敷料と比較して牛の行動、牛体の汚れに差はみられませんでした（図3）。

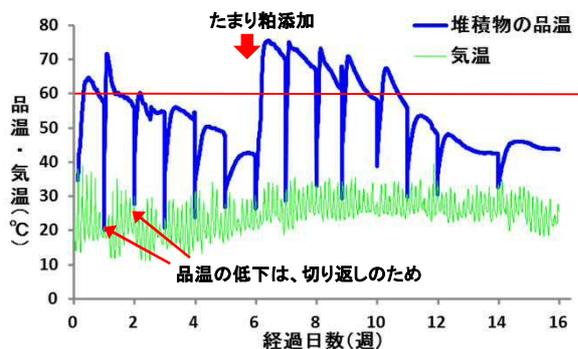


図1 品温と気温の推移

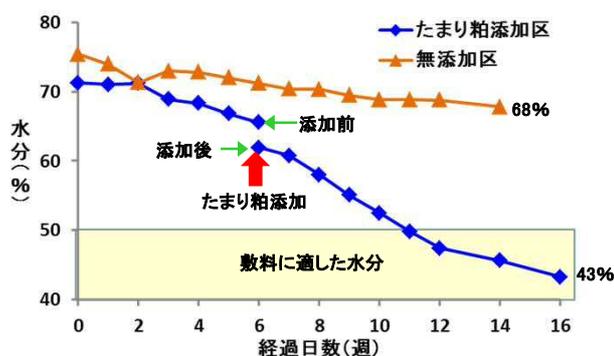


図2 水分の推移



図3 敷料向け堆肥の生産と牛の敷料としての再利用

愛知県農業への貢献

低水分の敷料向け堆肥生産技術により、供給が不安定なオガクズに代わる敷料用堆肥の安定した確保が可能となるとともに、産業廃棄物として事業者で処理されていたたまり粕が有効に活用できます。